

変身

=グリムのメルヒェンに見る変身=

日本の昔話では、動物が人間に化身して「ひとをだます」または「恩返しをする」話が多く見られる。グリムのメルヒェンでは、魔法や呪いをかけられて、人間が動物に変身させられる話を多く見出すことができる。

KHM1 カエルの王さま、または鉄のハインリヒ



KHM144 小さいロバ



KHM123 森の中のお婆あさん



KHM9 十二人の兄弟



KHM93 カラス

KHM25 七羽のカラス



KHM181 池の中の水の精



KHM122 キャベツロバ

KHM69 ヨリンデとヨリンゲル

KHM106 かわいそうな粉屋の若者と小猫



KHM161 ゆきしろとばら

KHM100 ハンスハリネズミぼうや

17/18世紀頃の農村中心の社会では、王侯貴族、教会、農民以外の身分のものは『人間ならざるものの住む領域』の境界に生活する人間たちである。粉ひき、豚飼い、羊飼い、きこり、狩人などは、森や山の近くに住んで異界の出来事を見聞きする。そこには、魔女や小人、オオカミや鬼が棲息する。変身させられた「王女や王子」「兄や妹」「夫や妻」、変身させたのは魔女、そして呪いを解くために知恵と勇気と愛をもって、三たび、七たび試練に耐え、あきらめずに救出劇を繰り返す、人間に戻るまで。